

## 2021年1月

筋肉痛絵筆手にして痛み止め 二、三枚青葉を摘んで盛る小皿 もくもくと終日夫は干支作り オーダーの犬の首輪も鬼滅柄 半日はかわいい動画見て暮らす 薬増えご飯の量は減らせない トランプも止めて皆で祝い酒 お祝いも自粛の中の二十歳 おお寒いもっと寒いぞ北の国 コロナ害総てのニュースを押し退ける 立金花長野の蕎麦が懐かしく	IT社会趣味の時間に自分あり おなますはやっぱりばあばと電話口 年明けてドラマ始る箱根山 独り身の鏡開きや餅三つ 年賀状赤ベコさんまで哀しそう 人日や海苔茶漬けで邪気払ふ コロナ明け皮算用に笠が飛ぶ 疫の世餅つく音のほっこりと カーテンの隙間ひとすじ初明り シクラメン老いの居場所の華やかに
--	--

## 2021年2月

「孫はやさしい」バランス考え立つキッチン 湯タンポのほどよく冷めて腕の中 ミントンのタオル一枚春めいて 落椿咲きたるまゝに転げをり 水仙の香りほんのり鄙の駅 曇天や南天の実のあかあかと 透明性問われて曇りガラスほど 結局は孝行娘の浪花節 河津祭り中止で桜を堪能す	菜の花はサラダが似合う春の朝 新聞ははかなき命明朝まで 孫からの義理チョコ食べて世辞を言う 墓の前変わらぬ造花色あせぬ 老人事故機能減退増えるのみ 全盲の犬と散歩に楽しそう 森の川淵も削りて橋の本 節分は四回あると孫が言う タバコ止め二十年経って肺に穴
---	--

## 2021年3月

古雛も観光資源に春の郷 あの俳優年を取っても素敵です 誰ですか？帽子深めでマスクかけ 雨上がり犬は視線で散歩来乞う 湖の杭にきちんと坐る鴨の群 木蓮の咲き競うかな春の風 たをやかな枝先ポツリ木瓜咲きぬ アナウンサー声くぐりて花便り	ゆったりと茶柱立てり春あした 暖かやモデルハウスの若夫婦 早々咲かず通常咲きを望むのみ アスリート後の人生どう生きる 花を買い始めて見るもの多くあり 啓蟄やコロナ棟より這ひ出づる 春の夢続きを見むと又眠る 白子干そっと添えたる祝い膳
--	---

花粉症思考回路のきしむ音 狭庭にひととき遊ぶ雀の子	春宵や燈籠揺らぐ港町 疫病と自然治癒とは太古より
------------------------------	-----------------------------

## 2021年4月

ひとひらの桜を追って犬走る 鶯を鳴かせた桜散りつくし 桜散り寂しき路につつじ咲き あらかわいい覗いてみたら犬だった 半額と誘う船旅怪しいな 消毒のしすぎで殺す常在菌 目の前のつつじ満開風旨し 過ぎし日の街の灯語るピアノ在り ひとことのメモ残し往く春日かな 昂りの心にまかせ花道中 感染数告げるばかりや春便り	若草の足並み揃ふ風の道 ホテルの窓雲と富士山シャワー音 車庫の上赤青黄色咲き誇る 松山のショットの美技に拍手する 一昨日はジグゾーパズルのチューリップ 黄砂振り陽の影薄く影もなし 法螺吹きも愚図も頓馬も紙一重 何波までやって来るのか新型コロナ 清明や庭の草木が生き延びる 採り過ぎて夢のまた夢潮干狩り 花散るや行き交ふ人もまばらなり
---	--

## 2021年5月

枇杷一枝花瓶に挿して梅雨忍び コンポストひっくり返す竹の伸び 木の葉散り樋の掃除費四万円 風薫る五月の空ぞ鯉のぼり カワセミを真剣に追う連写音 夏近し雷落ちて孫ふるえ 一日に二度打って無事ほっとする 友よりの弱気なラインに言葉なし 遠き地の子より真っ赤なカーネーション ゴールデンウィーク街行くバスや一人占め	骨密度計りて小魚つまむ日々 ほろほろとその身ほぐれる一夜干し ぐずり空遠くに法螺が響いてる 初経黄砂で霞む青き山 新茶来るたよりは未だ来ぬままに 春野より風に押されて戻りけり 春眠し猫も隣で大欠伸 夏近し今朝も草引く草を引く 爆撃と病棟の街に平和遠し 花多いかカーネーションに苦勞思う
---	---

## 2021年6月

オリパラは尾身さんだけが冷静か 知事選は醜き大人のけんかかな ワクチンをまだかまだかと首長く つまずきが旅の始まり心する 可愛そうでも有り難く繭を煮る	身の痛みたたりうらめし草まみれ 薔薇薫る無人の駅のおもてなし 老いもまた楽しからずや七変化 百合園の浴びたる香り持ち帰る 終り待つコロナの話題過去の事
---	---

<p>目だけ出しあなたも私もマスク美人      梅雨空の下で弾ける子らの顔      投げ走る鉢巻すがたに胸熱し      子供ってこうでなくちゃ運動会      久に会う若き日の友鍼灸院      万緑にきわだつビワの黄金色</p>	<p>薄暑にて花柄のシャツ若き日々      コロナでもオリンピックは止められ      ず      大君の雷返せし丘に立つ      蝉時雨紫式部も筆を留め      コロナ禍で蝉もお休み立石寺</p>
--	---

## 2021年7月

<p>手をつなぐ手を離したら消毒だ      翔猿のモンゴル相撲勝機なし      ドリンクバー酸いも甘いも飲んでいる      又雨か妻の機嫌が悪くなり      朝の雨うらやましげに犬の顔      オリパラはどうなるのかと気をもんで      梅雨晴れや歩道の草の逞しき      石段を登りて涼し夜泣き石      子の声の夫に似たりし盆供養      お坊さん夏衣爽快うつ晴れる      雨上がり若葉の間蝶遊ぶ</p>	<p>土石流総てを流し世を破壊      ポトポトと青梅落花しぼむ夢      したい事山ほどあってまず昼寝      らっきょうも梅も漬けたと日記付け      無花果を一二数えてバスを待つ      とうもろこし今じゃレンジでチン四分      時代劇見るはいつもの「目出度えなあ」      蓮一輪鑑真偲ぶ背戸の庭      アマテ紙の色鮮やかに夏の花      文明の世人災数多嘆き節</p>
---	--

## 2021年8月

<p>こらかむな苦勞の末の金メダル      見事だね女子一丸の野球です      雨じゃない早く起きてよ散歩だよ      尊徳像鬼滅のマスクさせられて      ペットロス語りて涙なみだかな      父の好き野菊の似合ふ原節子      スイッチョン集めて譲り損はせず      クツワムシ口先だけの受け売りや      オオバッタ言うこと聞いて票もらい      スズムシや爽やかに鳴き損ばかり      誰来たのたまの掃除に彼女聞く</p>	<p>ネーミング変えてあげたいドクダミに      トンネルの光が見えない不安感      まなうらに旅の花火の開きけり      到来のスイカの先ずは絵手紙に      短夜を亡夫と旅して夜が明ける      ポーチュラカ夏の終りを咲き誇る      さるすべり朝雲光り睡気とぶ      歳とった高級官僚手に付かず      五七五書くたび眼に入る腕のしわ      朝昼夕これが仕事と点眼三種      しみしわも生きた証よ皆アート</p>
---	---

## 2021年9月

そこここにクライミングの蝉の殻 秋茄子の紫紺深まる今朝の涼 さざ波が入日に染まる秋の湖 誰も来ぬひと日黄昏白木槿 雨上がりゴルフのボール追ふ蜻蛉 摩訶耶寺の睡蓮合掌浄土めく 散歩道やたらと広く生い茂り 朝夕に秋風渡る佐鳴台 信濃路や舞い降り来るアキアカネ 選手皆残る機能をフル回転 ライバルの肩抱き合う雨の中	顔のしわ喜怒哀楽を織り込んで 広い土地ゆっくり旋回赤トンボ 満月に見つめられそと胸隠す 朝焼けに白鳥たなびき気分よし 俺が出るいや私の番と自民党 真子さまは愛を貫き米までも パラおわりコロナ残してアリガトウ マニキュアをほんのり紅く喜寿の恋 象と蟻女王アリもおもしろい ちよい老けのアイドルが来るわが町に
--	---

## 2021年10月

長き春菊人形も枯れにけり めでたさも中ぐらいなり物理賞 一瞬のマスクはずしてはいチーズ 大谷を敬遠するなプロだろう 息子には大谷君とそうた君 宮様を守り切れるかアメリカで 英語より訳がわからぬカタカタ語 晩酌は芙蓉の赤と同時刻 友の句集夫婦仲には恐れ入る 新蕎麦や腰の痛みを遠退けり 烏瓜朱を極めたる里の山	願わくば今年も松茸来むことを 湖上駅秋の川風吹き抜ける 石庭の石の無音や秋の風 窓を開け耳を尖らせ虫聴かな 赤トンボゴルフの球を旋回す 咲き並ぶ白き彼岸花道静か 観客は選手のやる気倍増す 月冴えてすだく虫の音風通る 鐘が鳴るすする甘酒秋彼岸 針箱を広げてうつら秋日向
---	--

## 2021年11月

年の暮朝に整体午後は針灸 千両に南天実を付け飾る庭 教え子の気象予報士今日も見 十万円俺もほしいと駄々をこね 原油高給油控えてひきこもる 摩訶不思議落選しても返り咲き	車窓より秋の天守の人見えて 書道展誘われた日々花咲かせ 足袋の白秋が深まりより静か 鳥の列揃っているよと叫びたり 晩秋の暁の空カラス舞ふ 秋雨来て雑草一気に芽を吹かす
--	--

<p>知らぬが佛見えぬが佛ありしかも 読みかけの本にひとすじ木の葉髪 入浴剤ひとふり我家寒に入る 櫓田の群るる雀のひとうねり 杉玉の青々入魂花の舞</p>	<p>行く秋や何しにここに来たのかな 賢治の詩重きコートの手いして 人の手を慕う捨て犬夜半の冬 目覚め惜し夫の声見る冬の朝</p>
---	---

## 2021年12月

<p>菓子を投げカモメ行き交う冬の海 月のそば宇宙の船で何思う 伊豆料理新鮮な魚横たわる 銀杏染む己が主と庭に立つ 湖に孫三人の声清し 冬ざれや得体の知れぬオミクロン えさ狙う鷺の眼差し息をのむ 千切りの大根干せば香り立ち いい景色夫婦でつつくモンブラン 秋の雲広がる先の八ヶ岳 展望台色なき風の中にあり</p>	<p>紅葉を愛でてひと日のバス旅行 湯気立ちて居心地の良き友の家 現役を退きしラガーの名解説 古日記体重増えてしまいけり 鍋ものの残りですます老二人 年ふるや鍋の重みが身に応え 焼き梅の効能知ってまず実践 茶の花や一輪咲くも癒しかな 天体の華やかなりし冬の空 ポンポンと太鼓を打ってザクザクと</p>
--	--